

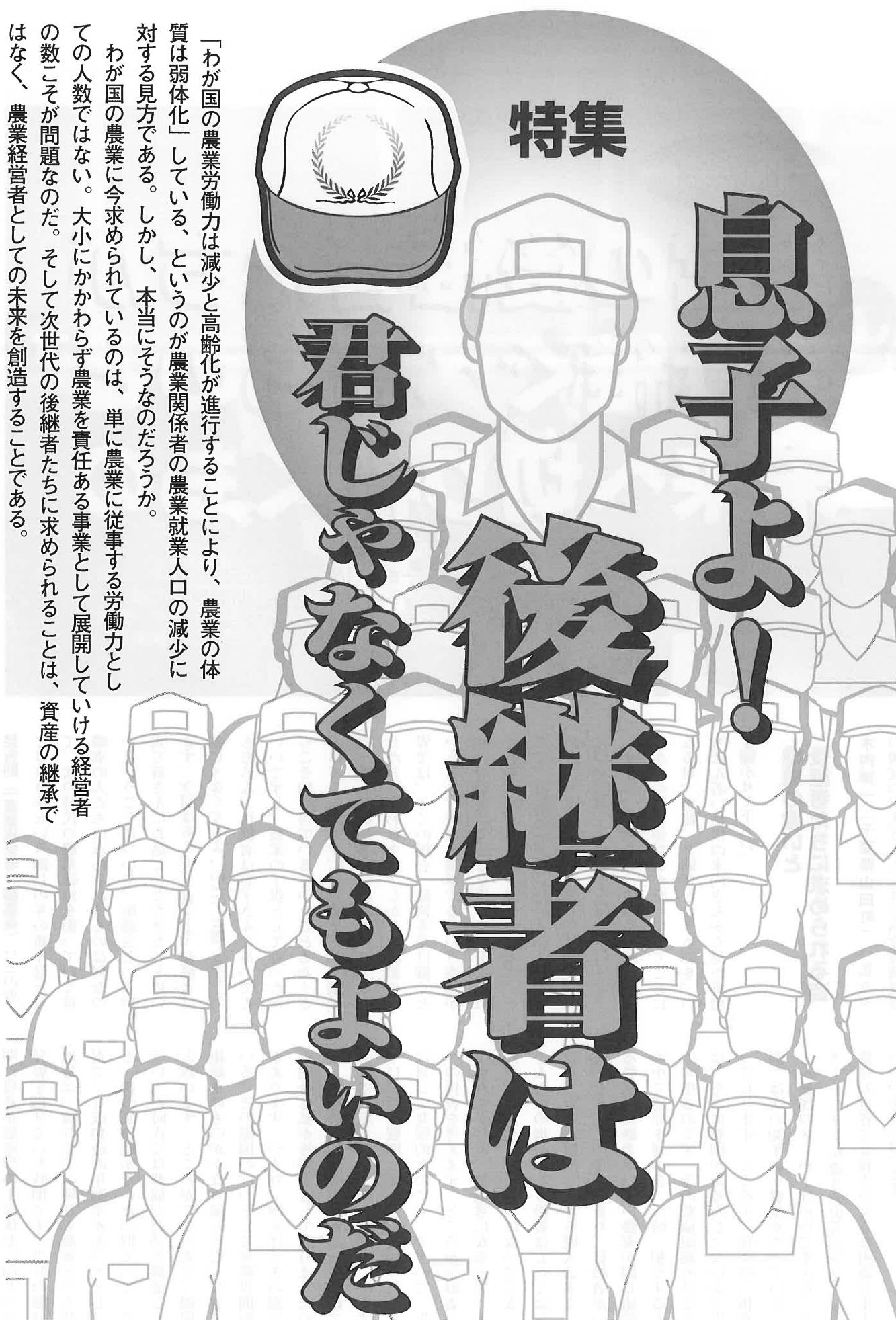
特集

息子よ！

君じゃなくともよいのだ
後継者よ！

「わが国の農業労働力は減少と高齢化が進行する」とにより、農業の体质は弱体化している、というのが農業関係者の農業就業人口の減少に対する見方である。しかし、本当にそうなのだろうか。

わが国の農業に今求められているのは、単に農業に従事する労働力としての人数ではない。大小にかかわらず農業を責任ある事業として展開していく経営者の数こそが問題なのだ。そして次世代の後継者たちに求められることは、資産の継承ではなく、農業経営者としての未来を創造することである。



座談会

経営の後継者たちが受け継ぐべきものと未来へ切り開くもの

【出席者】

木内 博一さん (農事組合法人和郷園代表 32歳)

小野寺俊幸さん (北海道常呂郡常呂町 47歳)

横森 正樹さん (長野県南佐久郡八千穂村 53歳)

昆 吉則 (司会 「農業経営者」編集長)

昆吉則 (農業経営者 編集長) この度、

2000年という節目の年の新年号として、次の時代の農業経営を担っていく後継者の人たちに求められるものは何なのかということについて、座談会という形式で皆さんにお話しいただきたいと思います。

今回はあえて、「息子よ! 後継者は君じやなくともよいのだ」と題しました。もちろん、後継者は息子さんであつてもいいですし、農家の子供として育つたらこそ知り得ているということもたくさんあると思います。経営者にとって最後の一一番大事な仕事は、後継者を育てるこ

とだとも言われます。しかし、農業の世界では、多くの場合、経営を受け継ぐ

いうより、資産を継承するという感覚が強いのが現状であると思いますが、それも近年、行き詰まりを見せてています。そ

こで、「経営の後継者とはどういうことなのか」、「その後継者の資質とは何なのか」について話してみようと考えたわけです。

まずは、口火を切って頂く意味で、これからの方々が育つていくことになる村、農協、共同体というものを、いちばん若い世代の木内さんから見た感想を聞かせて下さい。

地域の違いと 後継者たちに求められる姿

木内博一 (千葉県山田町) 私たちの親父の世代は、ちょうど高度経済成長

期に農業が量産型の生産体系に向かって発展を遂げていた時期です。当時の農村

地帯は、隣りもその隣りも農家という状況で、5歳10歳の年齢差があったとして

も、皆の価値観がだいたい似ていた。そういった時代では農協が有効に機能した

と思います。ところがここへ来て、農協組織そのものがかなり厳しくなってきて

いる。その原因の一つとして後継者問題があります。つまり、例えばうちの親父の場合は私が後継者として入りましたので、農業経営の在り方はむしろ発展的で

す。21世紀をどのように競争し、どのように経営を開拓していくかといつたこと

に対して発展的なのです。ですので、先への投資を考えます。ところが後継者が生まれなかつた、後継者になると思つて

いた息子がサラリーマンになつてしまつた人たちの場合、もう投資はしたくはないが、有利に販売しながら収入は多くしたいと考えている。つまり、後継者がい

る農家と後継者がいない農家が同じ組織の中で意見を述べ合つた時、相反するものが出てきます。今、農業組織の苦しさ

は、そこに原因があるんじゃないかと思つております。ところが、我々の「和郷園」は次の30年40年農業をやっていくこ

とが前提のメンバーばかりですから、スタートラインが違うと思うのです。今、農業の世界では我々のような組織が生まれつつあると思います。

息子よ! 後継者は 君じゃなくてもよいのだ



昆・それは、木内さんの地域が東京周辺の畠作地帯であり、商品流通、商品経済の中に取り込まれた地域におられるということもあるのではないでしようか。その点で、北海道では違うものがあると思って、小野寺さんはどう思いますか。

小野寺俊幸（北海道常呂町）・北海道では「農業イコール経営」と言つていいでしょう。辞めた時にはその土地を離れることになるのです。つまり、北海道の農業を守るということは、地域を守る、あるいは村を守るということとイコールになります。農業という仕事を辞めたら、その地域には住まないというのが北海道の大半の農家ですから。私の先祖は東北出身ですが、北海道に開拓に来た時、アメリカの開拓民と同様で、北海道で一旗揚げようとやつて来たのです。ですので、そこでだめだつたらお国へ帰らなければならぬわけです。今だからこそ国へ帰る訳にはいかないけれど、そうした人たちは、札幌なり旭川、網走管内の都市にみな吸収されて、労働力となつていくわけです。農業後継者も後継者のいない人達も最後の最後まで、地域の農業経営者たちと共に地域を担つて走り続けていかなければならぬという宿命があります。そういう意味で、今、木内さんのお話を聞いていて、ちょっと違うなと感じました。北海道において後継者問題とは、



農事組合法人 和郷園代表 木内博一さん（32歳）
〒289-0424 千葉県香取郡山田町新里1020 ☎ 0478-78-5501

【プロフィール】

和郷園は千葉県北東部の11市町村にまたがる、20代、30代の農業経営者たちによる産直団体である。栽培作物ごとに独自の指定農薬を定めており、その利用を徹底するための管理システムも整備している。また、2ヶ所の集荷センターと、温度管理のできる品目別に2ヶ所に分かれたパックセンターを持つ。

昆・まさに、村に暮らす人々の永遠のテーマであるわけです。ただ自分の地所を守り、家を守つていくだけの後継者は、北海道には必要ないのです。農業というものを守れないとダメなのです。ですから、今でも開拓の時と同じように、北海道で農業をやっていきたいという人達はどうやつて受け入れるか、どうやってそうした人達を地域で育てていくかということは大きなテーマなのです。そういう意味でも、北海道を一つにまとめている農協は重要な役割を持つているのです。

昆・横森さんの地域は、木内さんの地域と小野寺さんの地域の中間的な位置付けといえるかと思います。まさに中山間地で、工業に携わり室内工場を10年位やりました

が、やはり自分の好きな道、あつて道分は農業が一番いいと。昔ながらの自給自足でほどほど食べていくだけの農地があつ

たので、自分の能力も分からぬ中で後を継ぎました。そのチャンスを与えてもらい、自分に何が一番合っているかを見出したとお伺いしたいと思います。皆さんはどういう動機で就農され、そのとき葛藤はありましたのでしょうか。

継ぐ動機は人間的なものであつてこそ

昆・皆さんが農業を継ぐきっかけについてお伺いしたいと思います。皆さんはどういう動機で就農され、そのとき葛藤はありましたのでしょうか。

横森・私の場合、農家の長男だから勉強する必要がないということで、勉強させてもらえなかつた。ところが20歳の頃、自分の実力を試してみたり、海外へ出ました。派米農業労務者ということです年間研修を受け、海外で農業に目覚めて帰つて來たところ、日本は高度成長の時期で、親父は百姓なんにする必要ない、勤めろとなつた。少し勤めたのですが、学歴がないと一生懸命やつても田舎の工場では給料は少ない。これは馬鹿らしい。じやあ自分で事業を起こそうのですが、になつた。それで室内工場を始めました。

しかし農業が一番いい、農業が本当に自分に合つていると。農業が魅力があること

まさに、村に暮らす人々の永遠のテーマであるわけです。ただ自分の地所を守り、家を守つていくだけの後継者は、北海道には必要ないのです。農業というものを守れないとダメなのです。ですから、今でも開拓の時と同じように、北海道で農業をやっていきたいという人達はどうやつて受け入れるか、どうやってそうした人達を地域で育てていくかということは大きなテーマなのです。そういう意味でも、北海道を一つにまとめている農協は重要な役割を持つているのです。

昆・横森さんの地域は、木内さんの地域と小野寺さんの地域の中間的な位置付けといえるかと思います。まさに中山間地で、工業に携わり室内工場を10年位やりました

が、やはり自分の好きな道、あつて道分は農業が一番いいと。昔ながらの自給自足でほどほど食べていくだけの農地があつたので、自分の能力も分からぬ中で後を継ぎました。そのチャンスを与えてもらい、自分に何が一番合っているかを見出したとお伺いしたいと思います。皆さんはどういう動機で就農され、そのとき葛藤はありましたのでしょうか。

横森・私の場合、農家の長男だから勉強する必要がないということで、勉強させてもらえなかつた。ところが20歳の頃、自分の実力を試してみたり、海外へ出ました。派米農業労務者ということです年間研修を受け、海外で農業に目覚めて帰つて來たところ、日本は高度成長の時期で、親父は百姓なんにする必要ない、勤めろとなつた。少し勤めたのですが、学歴がないと一生懸命やつても田舎の工場では給料は少ない。これは馬鹿らしい。じやあ自分で事業を起こそうのですが、になつた。それで室内工場を始めました。



息子よ! 俊輔君は君じゃなくてもよいのだ

他の人と同様、能力がなければ経営者としての後継ぎにはなれないのです。我々の子供たちよ
りむしろ、今いるスタッフの中から社長が生ま
れてくるでしょう

(未内)

後継者たちに 受け継がせたいもの

昆：皆さん、後継者たちに受け継がせたいことは何なのでしょうか。

横森：それは地域によってかなり違います。あるのかと思います。うちの場合、中山間地ですから、農協という組織は原点ど

「では、農法は、絶対に足りない。」
しては素晴らしいと思っているわけです。
ですので、私が受け継がせたいと思って
いるのは、自分の農法だと思っています。
それは、絶対量としての商品が足りない

れではだめなんですね。やはり地域と農場を、ともに守つていく人たちが育たないと、だめだということですね。そういう中で若い人達が育つていくことが、その地域を守つていくことにもなるわけです。これからどんどん都会から人が集まつてくるでしょうから、労働者を雇用しようと思えばできるのです。必要なのは、経営の後継者なのです。「後継」という言葉は後を繼ぐと書くから、それはもう血縁かもしれないけれど、私は経営者たる後継者を求めますね。後継者という言葉は、もう21世紀には死語になつていて欲しいという感じがします。

昆・本当にですね。北海道の農業の場合、資産継承ではなく、あくまでも経営の継承です。小野寺さんのお感じになつたことは、木内さんの世代にしてみれば当然だよ、といった気持ちはありませんか。

木内・というより、小野寺さんの話を聞いて、経営論という点では全く同じだなと思いました。昆社長が言うように我々の世代では当たり前のことになつているとも感じますが。

私が就農した当時、「木内農園」という名前で、産直を一部やつっていました。平成5年に「有サカキ農産」となり、産直を広げ流通も手掛けました。そこでは「サカキブランド」としての商品作りをしていました。そして流通の部分を「有和郷園」として分けたのです。農場の継承という問題で、いま私が考えているのは、まさに会社のシステムなのです。相談役がいて、顧問がいて、社長がいて

よろしくお聞きしておきます。必要なのは、経営の後継者なのです。「後継」という言葉は後を繼ぐと書くから、それはもう血縁かもしれないけれど、私は経営者たる後継者を求めますね。後継者という言葉は、もう21世紀には死語になつていて欲しいという感じがします。

昆・本当にですね。北海道の農業の場合、資産継承ではなく、あくまでも経営の継承です。小野寺さんのお感じになつたこかたちで産直を一部やっていました。平成5年に「有サカキ農産」となり、産直を広げ流通も手掛けました。そこでは、「サカキブランド」としての商品作りをしていきました。そして流通の部分を「有和郷園」として分けたのです。農場の継承という問題で、いま私が考えているのは、まさに会社のシステムなのです。相談役がいて、顧問がいて、社長がいて、何か就農した當時、「木内農園」という言葉は後を繼ぐと書くから、それはもう血縁かもしれないけれど、私は経営者たる後継者を求めますね。後継者という言葉は、もう21世紀には死語になつていて欲しいという感じがします。

を守っていくには、例えば今、私たちの地域に10戸の農家があつたとして、それ全部を一人が集めて500haになつたからといって、豊かな農業ができるといふことはない。やはり地域には10戸の農家が必要なんです。そうしなければ、後継者をそこで育てようとしてもだめなんですよ。学校もなければ地域もない、そ

都会にいて農業をやりたいという優秀な人達を自分が養成して、その人達と新しい組織を作つて息子と一緒にやつてもらいたいと思うのです（横森）

実部隊の執行部がいる。さらにその下に新規の社員や、中堅の人たち。これを農業の中でもきつちりやつていけばいいんだなと思っています。今農場（サカキ農業）の方は、うざくからこつこつて、

最初に厳しいことを言うのです。それを覚悟して来てくれば、この人達はものになる

(横森)



横森正樹さん (58歳)
〒384-0704長野県南佐久郡八千穂村八郡 ☎0267-88-2877

[プロフィール]

派米研修から帰国後、プラスチック加工の工場を経営。その後、昭和51年農業を再開、中山間地の露地野菜経営に取り組む。生産した野菜を食材として使う観光客向けの割烹食堂も経営する。農業の理念を理解する企業とも組んで農産物の新しい流通事業を立ち上げることに意欲を燃やしており、また国内外の研修生の育成にも熱心だ。

ところでは全部ゼロからのスタートです。昔でいえば「丁稚奉公」をして暖簾分けをするという形です。何もない人達が来た時に、3年なり5年なり、うちに修行して、独立できるだけの技術を身につけさせ、それに関わる投資については、お金がなかつたら3年間はうちの機械を無償で貸しましよう、とか、独立のための資金をうちが準備しましよう、といったことをやっています。独立させて成功させて、その人達が息子達とともに仲間作りをしていけばいいと思って。そのためには、例えば機械をどんどん買っておく。

または空いている農地をうちが管理して、

その人達が独立する時に使ってもらう。

販売網も全部、確立していますから、そ

のルートで流してやればいいと。それには原点を教えなければいけないとと思うのです。

昆・横森さんはアメリカへ行つた時、本当に奴隸のように働いて、その経験が今になつてすごく価値があるという話をされていましたね。

都会の優秀な人達自分が養成して、さ

らにはその人達と新しい組織を作つて、

息子と一緒にやつてもらいたいと思うの

です。私は来年60歳になります。60歳になつたら引退して、農業は息子に全部任

は、今までやつてきましたが、新規就農者の養成に力を入れたいと思っていま

す。後継者育成や新規就農の場合、私の

ところでは全部ゼロからのスタートです。

昔でいえば「丁稚奉公」をして暖簾分け

をするという形です。何もない人達が來

た時に、3年なり5年なり、うちに修行

して、独立できるだけの技術を身につけ

させ、それに関わる投資については、お

金がなかつたら3年間はうちの機械を無

償で貸しましよう、とか、独立のための

資金をうちが準備しましよう、といった

ことをやっています。独立させて成功さ

せて、その人達が息子達とともに仲間作

りをしていけばいいと思って。そのため

には、例えば機械をどんどん買っておく。

または空いている農地をうちが管理して、

その人達が独立する時に使ってもらう。

販売網も全部、確立していますから、そ

のルートで流してやればいいと。それには原点を教えなければならないと思うのです。

だからそれだけに、親が自分の息子にどういう姿を見せ、経営者としてどう育てるかということが、非常に大事になつていくと思うのです。昆さんが

言われたように、走り続けてきた中で地

域の人達にいつも言うのは、自分の息子

は自分で教育できないから、隣の親父が

隣の息子を教育するという感覚が大事だ

ということです。研修生として山形県の

叶野さんの息子さんを預かっているとき

もそうでしたが、何を考えるべきかは教

えない。労働者としては使わず、労働者

として稼がすることを考えてもいけない。

経営者が車に乗つて農協に行けば一緒に

べていけることが基本にあると。そういう

原点から組織作りをすれば強くなる。

昆・小野寺さんは他の業界も含め、いろい

ろな付き合いをされている。そして、その

ほとんどがボランティアです。実の子供でな

い研修生たちも、そこから伝えられること

が、たくさんあるよう思えるのですが。

小野寺：私には三人の娘がおります。娘

ばかりです。しかし村の人達からは

「あんたのところは女ばかりだから、後継

者は選り取り見取り選べるからいいよな」

と言われます。自分もそうだとしか思つ

てないわけです。北海道でも自分の後継

者は自分の息子だという部分もある。馬

鹿でも何でも、自分の息子が農業をやる

と言つたら、絶対に農業をやらせないと

いけないという感覚が、やはりあると思

うのです。だからそれだけに、親が自分

の息子にどういう姿を見せ、経営者としてどう育てるかということが、非常に大事になつていくと思うのです。昆さんが

言われたように、走り続けてきた中で地

域の人達にいつも言うのは、自分の息子

は自分で教育できないから、隣の親父が

隣の息子を教育するという感覚が大事だ

ということです。研修生として山形県の

叶野さんの息子さんを預かっているとき

もそうでしたが、何を考えるべきかは教

えない。労働者としては使わず、労働者

として稼がすることを考えてもいけない。

経営者が車に乗つて農協に行けば一緒に

べていけることが基本にあると。そういう

原点から組織作りをすれば強くなる。

昆・小野寺さんは他の業界も含め、いろい

ろな付き合いをされている。そして、その

ほとんどがボランティアです。実の子供でな

い研修生たちも、そこから伝えられること

が、たくさんあるよう思えるのですが。

小野寺：私には三人の娘がおります。娘

ばかりです。しかし村の人達からは

「あんたのところは女ばかりだから、後継

者は選り取り見取り選べるからいいよな」

と言われます。自分もそうだとしか思つ

てないわけです。北海道でも自分の後継

者は自分の息子だという部分もある。馬

鹿でも何でも、自分の息子が農業をやる

と言つたら、絶対に農業をやらせないと

いけないという感覚が、やはりあると思

うのです。だからそれだけに、親が自分

の息子にどういう姿を見せ、経営者としてどう育てるかということが、非常に大事になつていくと思うのです。昆さんが

言われたように、走り続けてきた中で地

域の人達にいつも言うのは、自分の息子

は自分で教育できないから、隣の親父が

隣の息子を教育するという感覚が大事だ

ということです。研修生として山形県の

叶野さんの息子さんを預かっているとき

もそうでしたが、何を考えるべきかは教

えない。労働者としては使わず、労働者

として稼がすることを考えてもいけない。

経営者が車に乗つて農協に行けば一緒に

べていけることが基本にあると。そういう

原点から組織作りをすれば強くなる。

昆・小野寺さんは他の業界も含め、いろい

ろな付き合いをされている。そして、その

ほとんどがボランティアです。実の子供でな

い研修生たちも、そこから伝えられること

が、たくさんあるよう思えるのですが。

小野寺：私には三人の娘がおります。娘

ばかりです。しかし村の人達からは

「あんたのところは女ばかりだから、後継

者は選り取り見取り選べるからいいよな」

と言われます。自分もそうだとしか思つ

てないわけです。北海道でも自分の後継

者は自分の息子だという部分もある。馬

鹿でも何でも、自分の息子が農業をやる

と言つたら、絶対に農業をやらせないと

いけないという感覚が、やはりあると思

うのです。だからそれだけに、親が自分

の息子にどういう姿を見せ、経営者としてどう育てるかということが、非常に大事になつていくと思うのです。昆さんが

言われたように、走り続けてきた中で地

域の人達にいつも言うのは、自分の息子

は自分で教育できないから、隣の親父が

隣の息子を教育するという感覚が大事だ

ということです。研修生として山形県の

叶野さんの息子さんを預かっているとき

もそうでしたが、何を考えるべきかは教

えない。労働者としては使わず、労働者

として稼がすることを考えてもいけない。

経営者が車に乗つて農協に行けば一緒に

べていけることが基本にあると。そういう

原点から組織作りをすれば強くなる。

昆・小野寺さんは他の業界も含め、いろい

ろな付き合いをされている。そして、その

ほとんどがボランティアです。実の子供でな

い研修生たちも、そこから伝えられること

が、たくさんあるよう思えるのですが。

小野寺：私には三人の娘がおります。娘

ばかりです。しかし村の人達からは

「あんたのところは女ばかりだから、後継

者は選り取り見取り選べるからいいよな」

と言われます。自分もそうだとしか思つ

てないわけです。北海道でも自分の後継

者は自分の息子だという部分もある。馬

鹿でも何でも、自分の息子が農業をやる

と言つたら、絶対に農業をやらせないと

いけないという感覚が、やはりあると思

うのです。だからそれだけに、親が自分

の息子にどういう姿を見せ、経営者としてどう育てるかということが、非常に大事になつていくと思うのです。昆さんが

言われたように、走り続けてきた中で地

域の人達にいつも言うのは、自分の息子

は自分で教育できないから、隣の親父が

隣の息子を教育するという感覚が大事だ

ということです。研修生として山形県の

叶野さんの息子さんを預かっているとき

もそうでしたが、何を考えるべきかは教

えない。労働者としては使わず、労働者

として稼がすることを考えてもいけない。

経営者が車に乗つて農協に行けば一緒に

べていけることが基本にあると。そういう

原点から組織作りをすれば強くなる。

昆・小野寺さんは他の業界も含め、いろい

ろな付き合いをされている。そして、その

ほとんどがボランティアです。実の子供でな

い研修生たちも、そこから伝えられること

が、たくさんあるよう思えるのですが。

小野寺：私には三人の娘がおります。娘

ばかりです。しかし村の人達からは

「あんたのところは女ばかりだから、後継

者は選り取り見取り選べるからいいよな」

と言われます。自分もそうだとしか思つ

てないわけです。北海道でも自分の後継

者は自分の息子だという部分もある。馬

鹿でも何でも、自分の息子が農業をやる

と言つたら、絶対に農業をやらせないと

いけないという感覚が、やはりあると思

うのです。だからそれだけに、親が自分

の息子にどういう姿を見せ、経営者としてどう育てるかということが、非常に大事になつていくと思うのです。昆さんが

言われたように、走り続けてきた中で地

域の人達にいつも言うのは、自分の息子

は自分で教育できないから、隣の親父が

隣の息子を教育するという感覚が大事だ

ということです。研修生として山形県の

叶野さんの息子さんを預かっているとき

もそうでしたが、何を考えるべきかは教

えない。労働者としては使わず、労働者

として稼がすることを考えてもいけない。

経営者が車に乗つて農協に行けば一緒に

べていけることが基本にあると。そういう

原点から組織作りをすれば強くなる。

昆・小野寺さんは他の業界も含め、いろい

ろな付き合いをされている。そして、その

ほとんどがボランティアです。実の子供でな

い研修生たちも、そこから伝えられること

が、たくさんあるよう思えるのですが。

小野寺：私には三人の娘がおります。娘

ばかりです。しかし村の人達からは

「あんたのところは女ばかりだから、後継

者は選り取り見取り選べるからいいよな」

と言われます。自分もそうだとしか思つ

てないわけです。北海道でも自分の後継

者は自分の息子だという部分もある。馬

鹿でも何でも、自分の息子が農業をやる

と言つたら、絶対に農業をやらせないと

いけないという感覚が、やはりあると思

うのです。だからそれだけに、親が自分

の息子にどういう姿を見せ、経営者としてどう育てるかということが、非常に大事になつていくと思うのです。昆さんが

言われたように、走り続けてきた中で地

域の人達にいつも言うのは、自分の息子

は自分で教育できないから、隣の親父が

隣の息子を教育するという感覚が大事だ

ということです。研修生として山形県の

叶野さんの息子さんを預かっているとき

もそうでしたが、何を考えるべきかは教

えない。労働者としては使わず、労働者

として稼がることを考えてもいけない。

経営者が車に乗つて農協に行けば一緒に

べていけることが基本にあると。そういう

原点から組織作りをすれば強くなる。

昆・小野寺さんは他の業界も含め、いろい

ろな付き合いをされている。そして、その

ほとんどがボランティアです。実の子供でな

い研修生たちも、そこから伝えられること

が、たくさんあるよう思えるのですが。

小野寺：私には三人の娘がおります。娘

ばかりです。しかし村の人達からは

「あんたのところは女ばかりだから、後継

者は選り取り見取り選べるからいいよな」

と言われます。自分もそうだとしか思つ

後継者は君じゃなくてもよいのだ



息子よ!

連れて行く、あるいは隣りの圃場へ行けば一緒に行つて、そこで隣りの経営者と何を話して、どんなことを議論しているのかを私の隣で教える。周りの経営者を見ていると、親父が隣りの経営者と話をしている時に、息子はそっちの方でのその仕事をしていて、どんな話し合いがされているかといった部分が全く伝わっていないのではないかと思うのです。ですので、他人の飯を食べてから農業経営者になつた方がいいと思うのですが、今の若い人達はそれを嫌がるんですね。

横森・そうだね、親が指導をしない。

小野寺・しないですね。それは親が、「甘やかしたい」という気持ちが持つているからでしょうか。他人の飯を食べさせることは、これから後の後継者教育では必要なことだとと思うんですね。

横森・これはもう、一番大切なことだね。

木内・じつは私も、全く違う農家に8ヶ月間の住み込みをしたことがあります。そこは畜複合の施設農家ですが、牛を5頭、田んぼを5ha位やっています。朝おじいさんと一緒に4時に起きて朝仕事をやり、朝飯を食べて、昼前に田んぼの草を刈つて、その草を牛に食わせるというものでした。

横森・やはり、立派な経営者というのは、必ずと言つてよいほど他人の家の飯を食べていますよ。私も、うちに来た研修生達には「お父さん」「お母さん」と呼ばせています。

農業というのにはやはり限りなく夢を追求するものであつて、その結果としてお客様に商売させて頂くもの。次のものに向かつて夢を追い続ける人の方が、農業経営は成功するぞと言います（小野寺）

苦しさの体験からこそ生まれてくる農業への夢

昆・経営者の仕事は、8割9割はしんどいことばかりです。しかし後継者たちは、

人達はものになる。うちは夏場だけですから、夏の本当に忙しい時は朝4時から夜8時まで、ひどい時には9時までやりますよ。それを相手が納得すれば、努力できるのではないか

体験を共有することで、大きな夢も共有できるのではないか

小野寺・北海道の農業で忙しい時期は、春先と秋しかないの

時期の苦しい場面を見ない人たちは、農業がいいって言うわけです。叶野さんの

息子さんが春先に来て1ヶ月経つた時に、

俺は死ぬかと思ったと言うんですね。夜

も昼もなしにトラクタの作業、移植作業、

種まきと、めちゃくちゃな忙しさです。

それを彼らが経験して一年過ぎて見ると、自分もいい経験をしたと言う。

横森・うちで海外の研修生を受け入れる時に、向こうから甘い研修時間を聞いて

くる、國の方でも甘い研修時間を与えている。ただどうちはそういうことは一切

無視して、最初に厳しいことを言うのです。それを覚悟して来てくれば、このものは何ですか。

小野寺・これから農業に求められる人達はものになる。うちは夏場だけですから、夏の本当に忙しい時は朝4時から夜8時まで、ひどい時には9時までやりますよ。それを相手が納得すれば、努力しますから問題は何も起きません。

小野寺・国の方も、認証制度を作つて後継者を育てるのであれば、もっと農業研修の制度を見直して、他人の飯を食べて、他人の教育を受けた人を、初めて認定農業者にすればよいと思うのです。ただ単に「認定農業者にはお金を貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを根底に据えていかないといけない。いままでの制度でも後継者は育つかも知れませんが、でも経営者は育たないと思います。

農業者にはお金貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを改革とともに農家が非常に大変な時代を経て、今は世界一強い農業を目指しています。彼らのしたたかな点は、農業者だけでなく流通の人達もが、皆で力を合せて、日本に売り込みに来ていることです。彼らは日本のマーケティング情報を取り

チして、自国の農業者にフィードバックしている。日本ではそういうことが全然できていない。

次世代の後継者たちに求められるもの

昆・これから農業は、他産業から経営ノウハウ、管理ノウハウを取り込む必

要がありますが、その担い手たちに求めらるものは何ですか。

小野寺・これから農業に求められることは、流通、スーパー、外食産業といつたところに、したたかに自分達の商品を届けることでしょう。そのための人材が必要とされていくのではないか

日本の場合農協があり、国がテコ入れして我々の農業を支えてくれていた。それがでも日本の農業者は大変という言葉しか発しない。ニュージーランドでは行政改革とともに農家が非常に大変な時代を

農業者にはお金を貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを根本に据えていかないといけない。いままで

の制度でも後継者は育つかも知れませんが、でも経営者は育たないと思います。

農業者にはお金貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを根本に据えていかないといけない。いままで

の制度でも後継者は育つかも知れませんが、でも経営者は育たないと思います。

農業者にはお金を貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを根本に据えていかないといけない。いままで

の制度でも後継者は育つかも知れませんが、でも経営者は育たないと思います。

農業者にはお金を貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを根本に据えていかないといけない。いままで

の制度でも後継者は育つかも知れませんが、でも経営者は育たないと思います。

農業者にはお金を貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを根本に据えていかないといけない。いままで

の制度でも後継者は育つかも知れませんが、でも経営者は育たないと思います。

農業者にはお金を貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを根本に据えていかないといけない。いままで

の制度でも後継者は育つかも知れませんが、でも経営者は育たないと思います。

農業者にはお金を貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを根本に据えていかないといけない。いままで

の制度でも後継者は育つかも知れませんが、でも経営者は育たないと思います。

農業者にはお金を貸しますよ」といった甘い話ばかりではなくて、そういうことを根本に据えていかないといけない。いままで

の制度でも後継者は育つかも知れませんが、でも経営者は育たないと思います。

小野寺・それができるのも、経営者セン

スがあればこそだと思うんですよ。

木内・後継者をどういう観点で選ぶかという点では、まず中長期の計画を立てられるか、もう一つはソフト開発を続けられるかということです。私はまだ後継者を育てたことがないから想像としてしか言えませんが、その後継者が担う時間が、

あと10年～20年と考えた場合、その間ソフト開発を続けながら、常にハードに落としている人材を選びたいなと思っています。ソフト開発したものを作り落として、ハード内の機能を充実させながら次のソフト開発をする。こうしたことから時代のニーズに合わせながら繰り返せる能力が、いちばん求められています。他の産業と同じように、ソフトとハードと中長期の計画性、ビジョンを持つていねいな経営者はだめだと思うんです。

新規就農者たちを受け入れていくために

昆・「和郷園」ではどういう形で新規就農者を受け入れているのですか。

木内・我々の組合には研修センターがありますので、そこに新規に応募してきた人たちを寝泊まりさせながら、合否と言いますか、何人かに絞ります。そして実

際には人が希望する農場に、1週間から

10日派遣するんです。作業をやらせてみて、就農して続けられそうなのか、農家側の方でもこういう人間が農場でやっていけるのかを見極めて、採用か不採用という形をとっています。これは一見するとドライな感じに見えるかもしれません

が、私はかなりいいと思っています。も

う一つはあまりにビジネス化して農業を成り立たせてしまうと、スタッフの人達はその地域で孤立してしまいかがちです。

ですので、私の農場に来ている社員には

その地域の野球チームやサッカーチーム、

農業改良のセミナーなどに行かせていま

す。本人たちも、前向きです。その人間

が、この地域に来た新規の農業者である

ことを、周りの生産者に認めてもらわな

いと困ると思うのです。私の農場だけ

では孤立するだけなんですから、それで

は意味がないと思うのです。この地域に

来た人だから、地域との交流をしてもら

う。私の農場の援護がなくとも率先して

受け入れてもらえる環境にならないと、根付いていかないと思っています。

横森・この5年から10年以内に農業を目指す人がかなり出てくると思います。そ

の人たちに我々ができることの一つは、

住宅の提供です。新規就農者用の住宅を

作つたんですよ。家族用2戸、独身用

2戸、プラス研修施設ということで寮を

建てました。来年4月から使えるのです

が、ところがそれを管理・運営する人がいない。私の発想により、村や皆を動かしてやったことなのですが、農協でもど

こでも全部はできない。ですので、本當

は農協や行政がやらなければならぬこ

とを、私個人でやろうとしているのです。

経営の成功はパートナーにある

昆・それと、木内さんのところでは、弟

さんがと仲良くしっかりとやつておられ

ます。農業でも会社でも経営者だけでは

成立しない。必ず違う役割、能力を持つ

た人達がいる。そういう意味で、経営は

トップだけではできない。農業の中でも、

そのような役割分担を作っていく必要が

あると思うのです。大切なのは、誇りあ

る職業人で、むしろ自分の役割を自覚す

るということではないでしょうか。

横森・成功したところは全部そうだと思

います。それが夫婦だつたり右腕の人と

だつたりで。

昆・私も農家の方々を見るとき、まずご

夫婦の仲を見ちゃうんですね。

横森・奥さんの力というのは影の力だか

ら、この人の理解がないとダメです。

小野寺・お前じやなくて、女房がいい

んだ」と皆に言われるんです。研修者が

来ても、私が教えることよりも、家内が

教えることの大切さというのがやはりあ

るわけですよ。

横森・農業者交流会でも発言したことな

のですが、研修生を受け入れて支えてい

るのは誰なのかと。その家の主人じやな

くて、女房の理解がなければこの制度が

成り立たないと。

夢と誇りが後継者たちを育てる

昆・それと後継者ということでもう一つ。

夢がなかつたら話にならないという気がするんですよ。先にカネを見る人はやは

り辞めた方がいいよと。

小野寺・私は若い人達に百姓は少々でたら

めな奴の方がいいと言っています。計算は

できなければダメですよ。だけどね、本當

に最初からカネだけが目的だつたら、農業

よりもっと効率的な仕事はたくさんあると

思います。農業というのはやはり限りなく

夢を追求するものであって、その結果とし

てお客様に商売させて頑くもの。次のもの

に向かつて夢を追い続ける人の方が、農業

経営は成功するぞと言います。

昆・それは農業だけに言えることでは

なく、経営とは本質的にそういうもので

はないかと思うんですよ。ましてや、創

業する場合などは基本的には「無」から

「有」を生じさせることになる。つまり法

外なことを考えているわけです。無茶な

ことを考えているから、創業した人のほ

とんどは失敗するわけでしょう。失敗は

後継者は君じゃなくてもよいのだ



息子よ!

横森・本当にね、自分で言つたことに對して責任を持ち、努力する。私もどんどん言って、自分にプレッシャーをかけているわけです。だけど、お蔭様で手掛けたものは、すべて成功しています。後継者である息子にも、どんどん言つてプレッシャーをかけています。息子には昨年は現場を全部任せ、今年は流通、来年は経営とか經理の方を全面的に任せようと思っています。そして引退する予定を立てている。

木内・農業後継者が育たないと聞きますが、僕らの世代は、「あんたの親父は何をやつているの」と聞かれたとき、農家だと答えられなかつた。恥ずかしいというのもありますが、農業や農家と言うと、回りが一步引いちゃうんじやないかと考えたわけです。例えば少年期は、だいたい勉強に熱中したり、スポーツに熱中する。両方できかない奴は横道に外れて、大人の真似して煙草をふかしたりして人の目を引く。青年期に入つて今度は将来の職業を選択するという時に、俺はスポーツが得意だから野球界へ行くんだとか、音楽が好きだから音楽の道に行くんだとか言う人がいますよね。そういういた時に、今まで農業という職業で注目を浴びる事例がなかつたのだと思うのですよ。だから農業に後継者が生まれないのではないかと思います。

当たり前なんです。だけど、それでもやるという人がいるから、新しい事業が起きるんだと思うんです。

横森・本当にね、自分で言つたことに對して責任を持ち、努力する。私もどんどん言って、自分にプレッシャーをかけているわけです。だけど、お蔭様で手掛けたものは、すべて成功しています。後継者である息子にも、どんどん言つてプレッシャーをかけています。息子には昨年は現場を全部任せ、

今年は流通、来年は経営とか經理の方を全面的に任せようと思っています。そして引退する予定を立てている。



子供たちが自分の家は農家だと言えるために

昆・それでは最後に、お一人ずつ何かございましたら、ひとつお願いします。

横森・私はもう、後継者が息子であろうと他人であろうと、また私自身の考えに添うかどうかは関係なく、ついてきてくれる人であれば誰でもいいと思います。

小野寺・自分の経営を継承してくれる人だったら、誰であつても、どこからでも、後継者を受け入れたいと思つています。

今自家経営そのものの形態を残しながら、村の良さ、地域の良さを、後継者に受け継いでもらいたい、とも思つています。

それと子供がどんな職業に就いても、自分の家は農家なんだと自信を持つて言えるような、そんな子供を育てたいと思つています。娘達を海外へ出して、彼女らは、自分の家が農業をやっていることがいかに素晴らしいことを、他の国で学んで帰つて来ています。我々の常呂町に来る海外の留学生たちも、自分の親が農場をやつしているということを、誇りをもつて話します。ですから、これからも、農業の素晴らしさについて、子供達も含めた次世代に伝えていきたいと思います。

木内・日本の中での農業に対する見方も、これまで変わつていくのだと思います。農業や農場をやつてることへの価値観

小野寺・アメリカでは、実業家が農場で老後を過ごす、農場を持つことが成功者のステータスなんですね。ところが日本ではそういうことが全くない。まさしくそれが減ることは、農業にとってはむしろ喜ばしいことではないかと考へているのです。後継者不足を悩む必要はないのではないかと。農業は、やりたい人たちがやればいい。自分で育つ力のない人は、どんな栄養剤を与えてもだめだということでしょう。また、これから農業を受け継ぐたちは、地域やお客様に対する責任が、より求められる時代になつていいはずですので、その責務も全うしてほしいと思います。今日はどうも本当にありがとうございました。

以前ドイツの農場へ行つた時に、農場の中に芸術家の卵が何人も暮らしているんです。農場の草取りや農場の一部の管理ということで、彼らに住居と食事を与えられた。その時、こういうことも農家はできました。農場の草取りや農場の一部の管理で芸術に打ち込む環境を与えてるのでした。これからは教育だなと思ったんですよ。そういうのをひつくるめて受け入れられる農業をやつていただきたいと思うのです。

昆・今は大きな変化の時代にあります。その中で後継者の方々は受け継ぐべきを受け継ぎ、未来へ新たなものを伝えていくのは大変なことだと思います。ですので、あえて息子が後継者でなくともよいんだと象徴的に言い放つてみることが、この時代の農業にとって大事なことだと思っています。私自身としては、就業人口が減ることは、農業にとってはむしろ喜ばしいことではないかと考へているのです。後継者不足を悩む必要はないのではないかと。農業は、やりたい人たちがやればいい。自分で育つ力のない人は、どんな栄養剤を与えてもだめだということでしょう。また、これから農業を受け継ぐたちは、地域やお客様に対する責任が、より求められる時代になつていけば、世の中もつと変わるかもしれませんね。

後継者は語る—父の背中に何を見たのか

ミツバ、ゴボウを中心とした畑作野菜の作業を父と叔父と私の三人で請け負っています。父は海外からトラクタの写真を集めたり、各種加工機を備えた450m²の整備工場を作ってしまつたりといった農業機械マニアで、そんな環境の中で育った私も自然と機械に興味を持つようになり、暇さえあれば父の買った機械を使つて自動車エンジンのチューンアップに取り組んだりしています。

高校を卒業してすぐこの道に入つて8年が経ちますが、圃場によつて様々な条件があり、まだ勉強だと感じています。施肥管理の技術等、父から教えられる事はたくさんあります。

現在、地球温暖化等の環境問題が声高に叫ばれていますが、農業の分野においてもそうした声を無視することは出来ないと考えます。機械を操るのが好きだという理由だけで良かつた父の様な時代は終わり、代替の技術を検討すべき時期に来ていると感じています。

部品取りのために請負先で眠っている機械を譲つてもらうことも多く、これからは整備工場の設備を生かしての中古機械の販売について

ミツバ、ゴボウを中心とした畑作野菜の作業を父と叔父と私の三人で請け負っています。父は海外からトラクタの写真を集めたり、各種加工機を備えた450m²の整備工場を作つてしまつたりといった農業機械マニアで、そんな環境の中で育った私も自然と機械に興味を持つようになり、暇さえあれば父の買った機械を使つて自動車エンジンのチューンアップに取り組んだりしています。

機械マニアの父に導かれ、教えられた しかし時代は変わる

〒311-1722
茨城県行方郡北浦町次木
☎ 0291(35)2466

畑作作業を中心とした作業請負



高柳和雄さん (26歳)

も、チャンスがあれば取り組んでみたいと思つています。

時代の先を読み、道を切り拓く 父の姿に学ぶ

〒886-0005
宮崎県小林市大字南西方8421
☎ 0984(27)0005
キャベツ5ha、ニンジン5ha、カボチャ
0・1ha (試験栽培)



小杉芳弘さん (31歳)

しかし、現状に安住し変化を望まない保守的な風土の中で、父はいちはやく低迷する陸稲やイモに見切りを付け、野菜作に切り替える勇気と、時代を先取りする先見の明を持つていたと思います。父のそんな姿勢は、就農して四年半の私の経営にも大きな影響を与えています。経験の浅い私が専門書等から得た知識で、プラウ耕の後にバーチカルハローをかけ、ニンジンを播種しようと提案した時も、父は反対しませんでした。

私は父から技術や経営について教えてもらうことは特にありませんが、話をしなくとも以心伝心で通じることは多く、現役で頑張る父の姿を横目で見て、良いところは盗んでいます。

将来的には市場への全量出荷を目指しているのですが、市場価格の変動に左右されない経営基盤を築くためにも契約栽培を検討しています。また、今回の有機物循環農法研究会で知り合った本田和寛さんのマンゴーのようない観光地の特作栽培にもチャレンジしたいと考えています。

父の反対を押し切り、 農業の明日を信じて

〒987-0402
宮城県登米郡南房町後屋敷待井11
☎ 0220(58)4205
水稻8・9ha、作業受託8・9ha



(有)板倉農産
阿部善文さん (33歳)

私は地元の工業高校を卒業後、東京の電機メーカーに就職しましたが、仕事を覚えるにつれ、毎日同じような仕事を自分のためではなく、会社のために繰り返しやつているように感じ、やる気を失っていました。そんな時、幼少時代を過ごした故郷の小林に帰り、おおらかな自然と触れあつた時、父の仕事である農業をやりたい気持ちがふつふと湧き上がり、約8年間勤めた会社を辞める決心がつきました。

私の住む地域は標高約600mの霧島山系の麓にあり、戦後、軍馬の生産地だったところを開拓して作り上げられました。私の家は祖父の代に入植しましたが、祖父は大工であり農作業には従事せず、そのお弟子さんにあたる人が私の家の土地を耕し、父に技術を伝えてくれたことがあります。当時は冷涼な気候のため、陸稲とのことです。当時は冷涼な気候のため、陸稲やイモが主な作目でした。私が幼少の頃の父は、朝早くから暗くなるまで働きづめで、私はそんな父の辛そうな姿を見るのが嫌でした。

「農業なんかやめて他に就職しろ!」幼い頃から両親の農業する姿を見て育ち、自

「親の背を見て子は育つ」。子供たちが親の経営を継ごうと心に決めた時、親の背中を必ず見つめることになる。そして、それは親への共感として、時に反撥として表れる。共感も反撥も彼らが経営の「後継者」となろうと動き始めたからだ。そんな農業経営の後継者たちに、親の背中を見て今何を感じ、親の背の向こうにどんな未来を見つめているのか伺った。

しかし私は、目の前の現実は厳しくても、来るべき時代を、そして日本だけでなく世界全体の問題として捉えた場合、必ず農業が必要となる時代が来ると考え、父の反対を押し切って宮城県農業実践大学校に進み、技術と経営について学びました。卒業後は古川農業試験場の育種部に勤務し、新品種の育成や栽培技術の研究等、先端技術に触れる機会を得ました。

そんなある日、見学者用に配布している冊子を何気なくめくっていたところ、載っていた一枚の絵に惹き付けられました。それは天保の大飢饉で骨と皮だけになりながら来作のための朝を守っている百姓の姿を描いたものでした。例え自分の身が滅びようとも次の世代のための糧を残そうとする姿に感銘しました。自分のレゾンデートルを見つけたと思いました。そして私は、「東北13号」（後のひとめぼれ）の種を退職記念にいただき、就農したのです。

以来、化学農薬と肥料の使用を極力減らしたお米を消費者に直接宅配したり、作業受託と販売のために農業法人を立ち上げたり、新しい可能性を求めて活動してきました。本来農業者のために働くべき農業団体が古い考え方に入りこみ、農業経営者を育てる芽を摘んでいるような気がしてなりません。そんな悩みを抱える私の相談相手になってくれるのが、かつて就農に反対し、現在は上司である父です。今では本音をぶつけあえるいい関係になっています。

分も農業者になると心に決めていた私を待っていたのは、父のこんな一言でした。

今にして思えば、当時は減反政策という内圧とウルグアイラウンド交渉という外圧が強まっていた時期であり、父は日本農業の未来を悲観して、わが子を辛い目に会わせたくないといつた「親心」から私の就農に反対したのだと思します。

しかし私は、目の前の現実は厳しくても、来るべき時代を、そして日本だけでなく世界全体の問題として捉えた場合、必ず農業が必要となる時代が来ると考え、父の反対を押し切って宮城県農業実践大学校に進み、技術と経営について学びました。卒業後は古川農業試験場の育種部に勤務し、新品種の育成や栽培技術の研究等、先端技術に触れる機会を得ました。

そんなある日、見学者用に配布している冊子を何気なくめくっていたところ、載っていた一枚の絵に惹き付けられました。それは天保の大飢饉で骨と皮だけになりながら来作のための朝を守っている百姓の姿を描いたものでした。例え自分の身が滅びようとも次の世代のための糧を残そうとする姿に感銘しました。自分のレゾンデートルを見つけたと思いました。そして私は、「東北13号」（後のひとめぼれ）の種を退職記念にいただき、就農したのです。

以来、化学農薬と肥料の使用を極力減らしたお米を消費者に直接宅配したり、作業受託と販売のために農業法人を立ち上げたり、新しい可能性を求めて活動してきました。本来農業者のために働くべき農業団体が古い考え方に入りこみ、農業経営者を育てる芽を摘んでいるような気がしてなりません。そんな悩みを抱える私の相談相手になってくれのが、かつて就農に反対し、現在は上司である父です。今では本音をぶつけあえるいい関係になっています。

現在は流通卸を通さずに直販していますが、消費者の要望にきめ細かく応えようと考えた場合、限界があるとも感じています。これからは法人を核として、流通業の方々とも手を携え、農産物のコンセプトを前面に出した企画売り等にも取り組んでいきたいと思っています。

トラクタの購入を機に就農 いつか父の背中を越えてやる



KEEP FARM
野中祐一さん (26歳)

〒503-0636
鹿児島県出水市明神町1269-1
☎ 0996(67)2137
水稻 6ha、裸麦 6ha、バレイショ
2ha、サトイモ 0.8ha

私が子供の頃は、友達と遊びたいのに日曜日の朝早くから農作業を手伝わされたりして、サラリーマンの家庭が羨ましく思え、農業に対するあまりいい思いを持っていませんでした。そんなこともあって高校を卒業後、自動車整備工場に一年間勤め、その後は10tダンプの運転手をしていました。

しかし、他人に使われ、氣を使う生活が嫌になっていたある日、雨で仕事が中止になり、父に誘われて行ったJA主催の農機展示会で、現在の「相棒」であるヤンマーAF720との運命的な出会いがありました。冗談半分で父に購入をせがんだところ、本気で商談を始めたのに驚かされました。自分も結婚して家庭を持つて初めて親のありがたみが分かってきた時期で

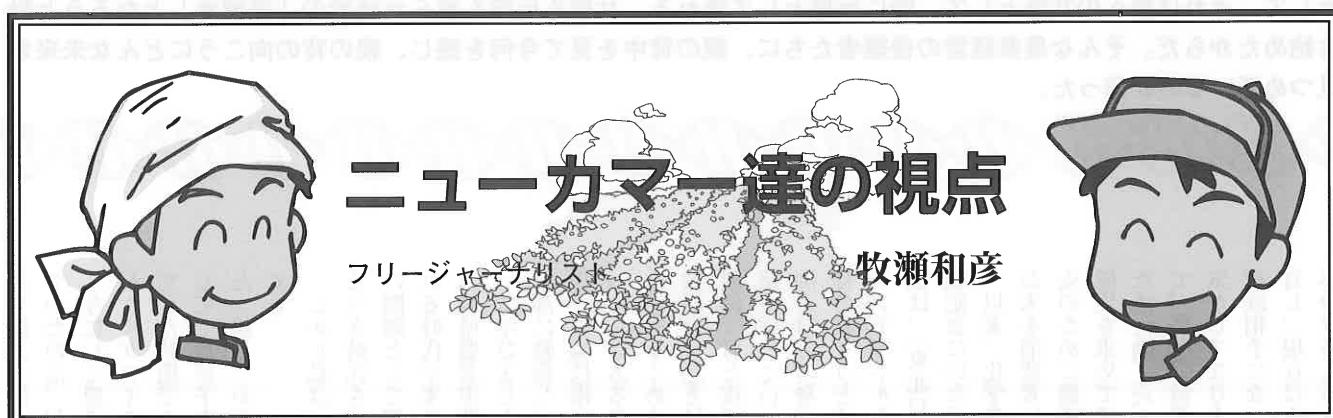
もあり、両親に少しでも楽をさせてやりたい思いがあつたので、このトラクタの購入を機に就農を決意しました。

就農して2年が経ちましたが、まだまだ毎日が勉強だと感じています。AF720はキャビン付きなので、夜でも作業が出来るという利点があり、作業ピーク時には昼に民家の近くを耕し、夜は気を使うことのない人里離れた耕地で作業するといった使い分けができます。そういって忙しさが今は楽しみであります。

父と私は、性格も考え方も正反対で、顔を合わせるとああでもない、こうでもないと言い合ばかりですが、最近独力で取り組み始めた2反のソラマメの作業を母と共に手伝ってくれたり、まあ楽しくやっています。父は50代でまだまだ現役ですし、私は父から給料を貰っている身ですので、自分の時代が来るのはまだ先かも知れませんが、父も若い頃は私と同じような道を歩んできており、いつかはその背中を乗り越えてやろうと思っています。



ブラシアートの施されたAF720



農業の明日を担う人たちは、もちろん農家の息子さんたちばかりではない。農業に未来を感じ、「ゼロ」からのスタートを決意して農業の世界に入った「新規就農者」たちは、地域社会にも「農業経営」にも新たな可能性をもたらし得る農業の「後継者」たちである。

(編集部)

この数年の農業現場には大きな変化が幾つもある。特に「農業後継者問題」はまさに様変わりした一つである。

●「後継者」とは

後継者が居ないことの不安は容易に理解できる。けれども息子達が家業を継ぎたがらないことは今日に始まつたことではない。

しかし、視点を替えてみると彼らの気持ちも判るような気がしてくる。農家の子弟たちはいつたい何を継ぎたくないと考えているのであろうか。

家督としての「家」を後継することと、農業としての「経営」を後継することとは意味が違つてくる。

また、農村社会としての「地域」の将来を担うことや、景観や自然環境を維持すること、食糧をできるだけ自前

で賄うための活動を「後継」することも彼ら後継者には期待されているのである。

それだけに「農家の後継者」の問題は複雑で困難だ。

●「ニューカマーの視点

先般、農水省から「農林漁業への新規就業者調査」の結果が発表された。これは学業を終え農業等の経営に参入した農家の子弟や、農外に就業していたが家業の経営に戻った数を調査し

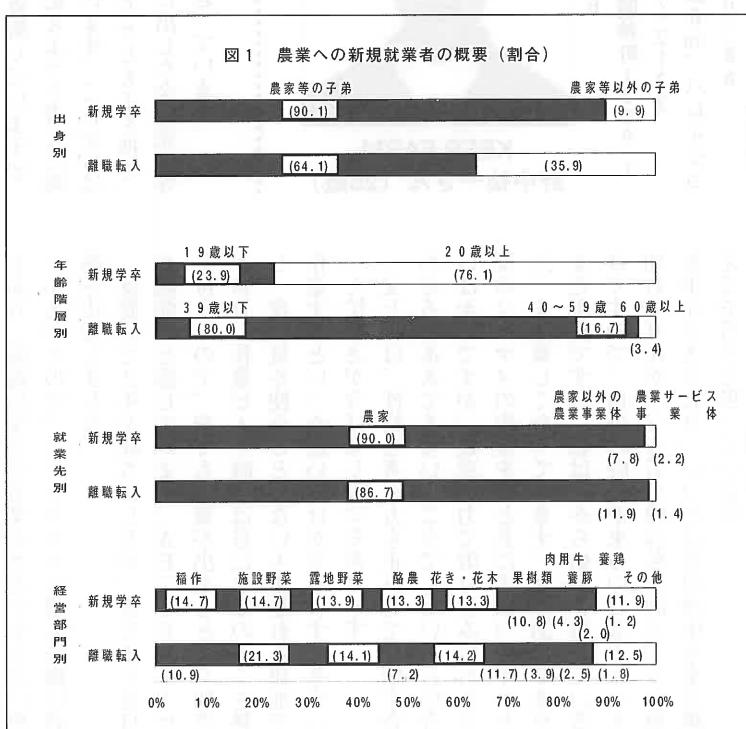
たものであ

り、平成11年次に全国で4010人が「農業」に就いた。この統計には2年前から「新規参入者」というカテゴリーも加わっている。これは土地や資金等を独自に調達し、新たに農業経営を

始めした経営主を指している。つまり、ニューカマーが農業に希望を持って入ってきたのである。このニューカマーが新たに就農した者のうち12%を占めており、さらに増加する傾向にある。

彼らの就業先には施設野菜、花栽培、露地野菜が多い。これは何を意味しているのであろうか。彼らは比較的設備や資本(ハードウェア)を要しなくとも、作目や売り方、特徴付けをする

図1 農業への新規就業者の概要(割合)



息子よ! 後継者は君じゃなくてもよいのだ

図2 統計表

【農業分野】

(1) 性別出身別割合

区分	計	性別		出身別			農家等以外の子弟	単位: %		
		男性	女性	農家等の子弟						
				小計	在宅	他出				
新規学卒就業者	100.0	90.7	9.3	90.1	45.2	44.9	9.9			
離職転入者	100.0	87.7	12.3	64.1	-	64.1	35.9			
計	100.0	89.4	10.6	78.5	25.1	53.4	21.5			
うち新規参入者	100.0	94.5	5.5	23.0	2.9	20.2	77.0			

(2) 年齢別割合

区分	計	新規学卒就業者		離職転入者			単位: %
		19歳以下	20歳以上	39歳以下	40~59	60歳以上	
新規学卒就業者	100.0	23.9	76.1	-	-	-	
離職転入者	100.0	-	-	80.0	16.7	3.4	
計	100.0	13.3	42.4	35.4	7.4	1.5	
うち新規参入者	100.0	0.2	20.6	40.8	31.1	7.2	

(3) 就業先別就業形態別割合

区分	計	就業先別		就業形態別			単位: %
		農家	農業以外の農業事業体	農業サービス事業体	経営主	家族・構成員	
新規学卒就業者	100.0	90.0	7.8	2.2	4.9	84.9	10.2
離職転入者	100.0	86.7	11.9	1.4	28.0	58.7	13.2
計	100.0	88.5	9.7	1.8	15.1	73.3	11.5
うち新規参入者	100.0	98.7	1.3	-	100.0	-	-

(4) 就業先の主な経営部門別割合

区分	計	稻作	露地野菜	施設野菜	果樹類	花き・花木	酪農	肉用牛	養豚	養鶏	その他	単位: %
新規学卒就業者	100.0	14.7	13.9	14.7	10.8	13.3	13.3	4.3	2.0	1.2	11.9	
離職転入者	100.0	10.9	14.1	21.3	11.7	14.2	7.2	3.9	2.5	1.8	12.5	
計	100.0	13.0	14.0	17.6	11.2	13.7	10.6	4.1	2.2	1.5	12.2	
うち新規参入者	100.0	6.4	21.5	25.7	7.7	21.7	3.1	3.1	0.4	1.1	9.4	

彼らは「農業」「農村」における後継者である。しかし彼らは今までと同じ農業を継続しようとは考えてはいない。例えいたとしてもそれは少ない。何故ならば同じことをしたいと思つているのであれば、新規就農者にニューカマーがこのようない勢いで増加するはずはないからだ。

彼らにとって「農業だけは特別」という価値観は通用しない。農業に新たな経営・ビジネスの可能性を見いだしている。新しい視点、センスで「産業としての農業」を構築しようとしている。

言い換えると、「農業を変える」ことが彼らの狙いであり、彼らの可能性なのである。

そんなニューカマー達に、農業や農村、農業経営者達は、何を期待しているのであろう。「何」を後継させたいのかを、ちゃんと考えておかないと、お互いを傷つけ合うことになってしま

「ソフト型経営」を指向していることが判る。

らには何もない。資本も、経験も、設備も、地域との連携もこれから作り上げなければならないのだ。

個別には大きな問題や課題を抱えている彼らは、新しいセンスと着眼と努力をもつて、新しい作

目に挑戦し、栽培方法を試し、販売の観点を重視し、経営形態さえ開拓しようと試みている。

彼らがソフト型経営を指向するにはそれなりの勝算があるからであろう。

●ニュービジネスとしての農業

ニューカマー達がなぜ「ソフト型經營」を目指しているのであろうか。彼

たニューカマー達の決定的な違いは「ゼロから始める」ことである。何も新しい視点から農業経営を見つめ、「何でも出来る」ことを意味している。

自らの人生を農業に賭けようとしている。新しい

●職業としての「農業経営」

彼らも「農業」「農村」における後継者である。しかし彼らは今までと同じ農業を継続しようとは考えてはいない。

い。例えいたとしてもそれは少ないのであれば、新規就農者にニューカマーがこのようない勢いで増加するはずはないからだ。

彼らにとって「農業だけは特別」という価値観は通用しない。農業に新たな経営・ビジネスの可能性を見いだしている。新しい視点、センスで「産業としての農業」を構築しようとしている。

言い換えると、「農業を変える」ことが彼らの狙いであり、彼らの可能性なのである。

そんなニューカマー達に、農業や農村、農業経営者達は、何を期待しているのであろう。「何」を後継させたいのかを、ちゃんと考えておかないと、お互いを傷つけ合うことになってしま